

平成21年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	採択年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	対応方針	事業方針概要	
						総事業費	進捗率	事業進捗内容							
						うち工事費	進捗率								
					目標年										
森林整備事業(林道事業)	1	経ヶ峰線	津市		H6			延長:5,713m	津市は、平成18年1月1日に旧津市、久居市、芸濃町、美里村など10市町村が合併し「津市」となった。 津市では、平成20年度を始期とする総合計画を樹立し、間伐等の森林整備により、森林の適正な管理を推進するため、その基盤である、林道、作業道の整備を進めることとしている。また、自然に親しむ環境作りのため、経ヶ峰を通して森林保全に対する市民の意識の醸成を促進することとしている。	【費用便益分析結果】 B/C=47.5億円/40.1億円=1.18  【コスト縮減】 波形線形の採用や幅員、路肩の縮減、また、コンクリート擁壁に替え補強土壁工を積極的に活用し、土工量と法面保護工を縮小すること等により、コストの縮減を図る。  【代替案の可能性】 当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はない。	延長:8,287m 事業費:2,134百万円	事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 なお、事業効果を発現させるために、本事業を進めるとともに、三重の林業振興を目的とした総合的な施策をさらに推進されたい。	継続	路網を形成するための中小規模林道の整備については、市町等の取組を支援します。また作業道等については、林業事業者や森林所有者が、造林、間伐等の国、県の補助事業や、今年度に造成された森林整備加速化・林業再生基金を活用し、開設できるよう、説明会、研修会の開催や、現地での個別指導等の支援を行います。 全国的に材価が長期低迷する中で、三重県の林業を振興していくためには、森林の団地化により施策を集約化し、路網と高性能林業機械を活用するなど、低コスト林業を実現しなければなりません。また、従来は柱材生産を中心としていましたが、今後は、林地に放置されている残材をパルプやチップに使うなど、木材をできる限り利用するカスケード利用を推進し、合板、集成材、大型製材工場等へ材を直接搬入して流通経費を削減するなどの取組が必要となります。 このため、三重県では、平成21年度から重点事業「がんばる三重の林業創出事業」を立ち上げ、山元での対策として、団地化、集約化のためのプランナーをはじめとする人材育成や、路網整備と高性能林業機械の導入による生産基盤の整備を進め、流通に関しても、大口の需要先と協定を結んで木材を安定供給できる体制づくりなど、平成30年度までに木材生産量を、ほぼ倍増の52万m <sup>3</sup> にすることをスローガンに掲げて、総合的な林業振興に積極的に取り組んでいきます。	
						3,977	46.3%								
						3,977	46.3%								
					H35	0	0								

平成21年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	対応方針	事業方針概要		
							総事業費	進捗率	事業進捗内容								
							うち工事費	進捗率									
							うち用地費	進捗率									
森林整備事業(林道事業)	2	浅谷越線	熊野市		<p>【全体事業概要】 延長:12,700m</p> <p>【事業目的】 路網が未整備な熊野市北東部の森林における骨格となる林道として、森林の適正管理と森林資源の有効利用を図るとともに、国道42号、311号、平成24年度完成予定の熊野尾鷲道路を連絡する道路として、地域の道路網を形成することにより、津波などの災害時の迂回路として、安全確保等の役割果たすことも目的とする。</p>	H6	2,411	73.2%	延長:10,040m	<p>・熊野市は、平成17年11月1日に旧熊野市と紀和町の合併により「熊野市」となった。</p> <p>・熊野市では、平成20年度を始期とする総合計画を樹立し、木材流通の拡大を目標に掲げ、その実現のために行政が果たすべき役割として、林道、作業道の整備をあげている。</p> <p>・熊野原木市場におけるスギ・ヒノキの取扱量及び平均価格を平成15年度と平成19年度で比較すると、取扱量で約3割、平均価格で約2割減少している。</p>	<p>【費用便益分析結果】 B/C=51.6億円/29.8億円=1.73</p> <p>【コスト縮減】 波形線形の採用や路肩の縮減、また、コンクリート擁壁に替え補強土壁工を積極的に活用し、土工量と法面保護工を縮小すること等により、コストの縮減を図る。</p> <p>【代替案の可能性】 当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はない。</p>	延長:2,660m 事業費:646百万円	事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 なお、事業効果を発現させるために、本事業を進めるとともに、三重の林業振興を目的とした総合的な施策をさらに推進されたい。	継続	<p>路網を形成するための中小規模林道の整備については、市町等の取組を支援します。また作業道等については、林業事業者や森林所有者が、造林、間伐等の国、県の補助事業や、今年度に造成された森林整備加速化・林業再生基金を活用し、開設できるよう、説明会、研修会の開催や、現地での個別指導等の支援を行います。</p> <p>全国的に材価が長期低迷する中で、三重県の林業を振興していくためには、森林の団地化により施策を集約化し、路網と高性能林業機械を活用するなど、低コスト林業を実現しなければなりません。また、従来は柱材生産を中心としていましたが、今後は、林地に放置されている残材をバルブやチップに使うなど、木材をできる限り利用するカスケード利用を推進し、合板、集成材、大型製材工場へ材を直接搬入して流通経費を削減するなどの取組が必要となります。</p> <p>このため、三重県では、平成21年度から重点事業「がんばる三重の林業創出事業」を立ち上げ、山元での対策として、団地化、集約化のためのプランナーをはじめとする人材育成や、路網整備と高性能林業機械の導入による生産基盤の整備を進め、流通に関しても、大口の需要先と協定を結んで木材を安定供給できる体制づくりなど、平成30年度までに木材生産量を、ほぼ倍増の52万m<sup>3</sup>にすることをスローガンに掲げて、総合的な林業振興に積極的に取り組んでいきます。</p>		
							2,411	73.2%									
									H26	0	0						

平成21年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	対応方針	事業方針概要
							総事業費	進捗率	事業進捗内容						
							うち工事費	進捗率							
うち用地費	進捗率														
道路事業	3	一般国道25号	伊賀市	ツ家バイパス	<p>【全体事業概要】</p> <p>延長 L=1,500m 幅員 W=6.0(9.75)m JRアダーボックス1基</p> <p>【目的】 当事業により、2車線の道路として整備することで、幅員狭小・線形不良区間を解消し、幹線道路としての利便性の向上や、円滑で安全な通行を確保することにより、地域間交流の促進と地域の活性化を支援するとともに名阪国道の代替道路としての機能の強化を図ります。</p>	H7	1,800	60%	平成7年度に事業着手し、用地買収及び工事を進めています。これまでに、900mを供用しています。	平成16年11月に、上野市、伊賀町、阿山町、大山田村、島ヶ原村、青山町の1市3町2村が合併し、新「伊賀市」が、平成17年1月には、亀山市、関町の1市1町が合併し、新「亀山市」が誕生しました。合併により、新伊賀市と新亀山市の地域間交流の促進と地域の活性化を支援する道路として、期待が高まっています。	【費用便益分析】 B / C = 1.1	順次工事を進め、早期の供用開始を目指して事業の進捗を図ります。	事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、残事業の早期完成に向けて、計画的で効率的な事業執行を求めらるものである。	継続	<p>残事業区間の現道は、JR関西本線立体交差部で幅員が狭隘であり線形も悪いうえ大型運搬車両の往来が多く、安全で円滑な通行に大きな支障をきたしているため、早期完成させる必要があります。現在、全体事業区間1.5kmのうち、平成19年度に延長0.38kmを供用するなど、これまでに延長0.9kmの整備を完了しており、事業進捗率は、約60%となっています。残事業については、JRとの立体交差があることから、交差部の工事着手に向け前後区間の整備を進めるとともに、JRとの施工に関する協議や伊賀市や地元関係機関との連携をはかり、早期完成に向け計画的で効率的な事業執行に努めます。また、盛土材に他工事からの発生土を活用するなどコスト縮減に努めます。</p>
						H26	120	99%							

平成21年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	対応方針	事業方針概要
							総事業費	進捗率	事業進捗内容						
							うち工事費	進捗率							
うち用地費	進捗率														
河川事業	5	二級河川三滝川 広域河川改修事業	四日市市		<p>【全体事業概要】 全体事業費 14,880百万円 計画延長 (三滝川) L=9,700m (海蔵川) L=4,200m (三滝新川) L=500m</p> <p>・築堤工 L= 16,736m ・掘削工 V=829,733m<sup>3</sup> ・護岸工 L= 17,566m ・樋門・樋管 3基 ・橋梁 9橋 ・堰 6基 ・用地補償 1式</p>	H18	14,880	14.0%	<p>【実施事業内容】 護岸工L=540m 橋梁 1橋 用地補償 1式</p> <p>【以降事業内容】 築堤工L= 16,736m 掘削工V=829,733m<sup>3</sup> 護岸工L= 17,026m 樋門・樋管 3基 橋梁 8橋 堰 6基 用地補償 1式</p>	(周辺環境の変化) 中・下流部は四日市市の市街地であり、近鉄四日市駅を中心に市街地が形成されています。また、四日市市中心部に位置することから流域内の土地利用の高度化が見込まれています。上流部は、四日市市郊外に農耕地が広がっています。	B/C = 47.21 河床掘削等による発生土を近隣の他事業に流用する等検討。また、護岸材料、工法の新技術の活用等により、コスト縮減ができるよう検討します。建設機械の排出ガス、騒音等の環境対策に努めます。 代替案は現実的側面からありません。	厳しい財政状況であるものの、随時、改修をすすめ治水安全度の向上を図ります。	事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、市町の内水排除対策や準用河川整備など、他の主体による事業との連携を密にし、事業推進を図りたい。	継続	内水排除対策や準用河川整備等の事業との連携については、必要な箇所において、関係機関との協議会の開催等連絡調整を密にし、住民が安心できる総合的な治水対策を目指し、さらなる取り組みを進めていきます。 また、堤防・護岸整備などのハード対策を着実に進めるとともに、住民が迅速かつ的確な避難ができるよう、浸水想定区域図の作成・提供やハザードマップ作成支援、雨量・水位情報の提供などのソフト対策と併せた治水対策により、県民の安全・安心の確保に努めていきます。
							12,963	14.3%							
						H47	1,917	12.1%							

平成21年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	採択年 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	対応方針	事業方針概要
						総事業費	進捗率	事業進捗内容						
						うち工事費	進捗率							
						うち用地費	進捗率							
河川事業	6	二級河川朝明川 広域河川改修事業	四日市市・川越町		S49	10,588	43.0%	[事業実施内容] ・築堤工 L= 14,642m ・掘削工 V= 84,185m <sup>3</sup> ・護岸工 L= 14,642m ・道路橋 6橋 ・用地補償 1式  [以降事業内容] ・築堤工 L= 5,242m ・掘削工 V=769,575m <sup>3</sup> ・護岸工 L= 5,242m ・道路橋 2橋 ・鉄道橋 1橋 ・水道橋 1橋 ・堰 3基 ・用地補償 1式	(周辺環境の変化) 朝明川中流部については、農耕地が広がっています。下流部については、四日市市、川越町の住宅地等が集中しています。 伊勢湾岸自動車道の開通などにより、流域内の開発が進んできており、今後も、更なる開発が見込まれます。	B/C=29.89 河床掘削等による発生土を近隣の他事業に流用する等検討、また、護岸材料、工法の新技術の活用等によりコスト縮減ができるよう検討します。建設機械の排出ガス、騒音等の環境対策に努めます。 代替案は現実的側面からありません。	厳しい財政状況であるものの、随時、改修をすすめ治水安全度の向上を図ります。	事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、市町の内水排除対策や準用河川整備など、他の主体による事業との連携を密にし、事業推進を図りたい。	継続	内水排除対策や準用河川整備等の事業との連携については、必要な箇所において、関係機関との協議会の開催等連絡調整を密にし、住民が安心できる総合的な治水対策を目指し、さらなる取り組みを進めていきます。 また、堤防・護岸整備などのハード対策を着実に進めるとともに、住民が迅速かつ的確な避難ができるよう、浸水想定区域図の作成・提供やハザードマップ作成支援、雨量・水位情報の提供などのソフト対策と併せた治水対策により、県民の安全・安心の確保に努めていきます。
						9,960	43.3%							
						H45	628	39.0%						

平成21年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	対応方針	事業方針概要		
							総事業費	進捗率	事業進捗内容								
							うち工事費	進捗率									
うち用地費	進捗率																
河川事業	7	一級河川芥川 総合流域防災事業	鈴鹿市		<p>[全体事業費] 事業区間延長 L=1,800m ・築堤工 L=3,600m ・掘削工 V=93,360m<sup>3</sup> ・護岸工 L=3,600m ・橋梁 N=5基 ・樋門・樋管 N=1基 ・床止工 N=1基 ・用地補償 1式</p>	S60	4,940	60.5%	<p>[実施事業内容] ・築堤工 L=161m ・掘削工 V=13,130m<sup>3</sup> ・護岸工 L=161m ・橋梁 N=2基 ・用地補償 1式</p> <p>[以降事業内容] ・築堤工 L=3,439m ・掘削工 V=80,230m<sup>3</sup> ・護岸工 L=3,439m ・橋梁 N=3基 ・樋門・樋管 N=1基 ・床止工 N=1基 ・用地補償 1式</p>	<p>(周辺環境の変化) 上流部には両岸に水田が広がり、下流部は民家・工場・鉄道が隣接しております。右岸側の鈴鹿川本川との間には東海道の四十五番目の宿として発展した庄野町があります。芥川流域内における周辺環境の大きな変化はありません。</p>	<p>B/C = 7.97 河床掘削等による発生土を近隣の他事業に流用する等検討、また、護岸材料、工法の新技術の活用等によりコスト縮減ができるよう検討します。建設機械の排出ガス、騒音等の環境対策に努めます。 代替案は現実的側面からありません。</p>	<p>厳しい財政状況であるものの、随時、改修をすすめ治水安全度の向上を図ります。</p>	<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、市町の内水排除対策や準用河川整備など、他の主体による事業との連携を密にし、事業推進を図りたい。</p>	<p>内水排除対策や準用河川整備等の事業との連携については、必要な箇所において、関係機関との協議会の開催等連絡調整を密にし、住民が安心できる総合的な治水対策を目指し、さらなる取り組みを進めていきます。 また、堤防・護岸整備などのハード対策を着実に進めるとともに、住民が迅速かつ的確な避難ができるよう、浸水想定区域図の作成・提供やハザードマップ作成支援、雨量・水位情報の提供などのソフト対策と併せた治水対策により、県民の安全・安心の確保に努めていきます。</p>			
							2,696	40.4%									
						H40	2,244	84.6%									

平成21年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	採択年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	対応方針	事業方針概要
						総事業費	進捗率	事業進捗内容						
						うち工事費	進捗率							
うち用地費	進捗率													
海岸事業	8	宇治山田港海岸	伊勢市	[全体事業概要] 堤防工 : 3,518m 突堤工 : 5基 養浜工 : 12万m <sup>3</sup>	H12	5,694.0	13.9%	[整備済み内容] 堤防工 : 180m 突堤工 : 2基 養浜工 : 1万m <sup>3</sup>	[社会的状況の変化] 宇治山田港海岸は、古くから夫婦岩(めおといわ)で高く、白砂青松の名勝地「二見浦」として全国的に広く知られており、平成18年7月には国指定名勝に指定されました。 また当該地域は伊勢志摩国立公園の特別地域に指定されており、明治15年には日本初の国指定海水浴場に、平成8年には「日本の渚100選」に選ばれています。 しかし、近年は海岸の侵食が著しく、海岸背後地の安全度も年々低下しており、甚大な被害をもたらす可能性が高いことから、事業の必要性及びその整備促進を求める気運は一層高まっています。	[費用対効果分析] B/C = 33.5  [コスト縮減] 突堤天端は遊歩道としての機能を有しており、当初計画においては石張舗装として計画していましたが、工事実施の際はコンクリート洗出し舗装に見直すことでコスト縮減を図っています。  [代替案] 海岸保全施設については、線の防護方式又は面的防護方式による整備が考えられますが、線の防護方式を採用した場合は既設堤防の高上げと堤防前面に消波ブロックの設置等が必要となります。しかしながら、背後の社会環境(夫婦岩表参道、旅館街)等を考慮すると自然景観を阻害する線の防護方式は好ましくありません。 また、当該地区のように侵食により越波が生じている海岸の場合、近年の海岸整備においては、高波を強制的に砕波させる工法を組み合わせる面的防護方式が最適であることから、当海岸において代替案は考えられず、現計画を進めることが妥当であると判断しています。	[今後の見通し] 厳しい財政状況ですが地元要望も強く、平成34年度の完成を目指し引き続き事業を推進していきます。	事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 今後、周辺環境や多様な利用形態に配慮しつつ、計画どおりに防災効果が発現されるよう事業を進められたい。	継続	当海岸が国立公園内の観光地に位置し恵まれた自然環境にあることや、堤防からの眺望や散策、レクリエーションなどの多様な海岸利用に配慮するため、引き続き地元関係者や関係機関との調整を図り海岸整備を進めていきます。 また、事業の進捗について遅れが生じている状況ですが、漁業関係者や地元関係者と調整し、より一層効率的な事業進捗を図るよう努めていきます。 さらに今後は可能な限りの重点投資を行い、計画どおりの事業完了を目指し事業を推進していきます。
						5,694.0	13.9%	[次年度以降の内容] 堤防工 : 3,338m 突堤工 : 3基 養浜工 : 11万m <sup>3</sup>						
						H34								

平成21年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	対応方針	事業方針概要
							総事業費	進捗率	事業進捗内容						
							うち工事費	進捗率							
							うち用地費	進捗率							
共通															<p>評価を行うにあたり、密接に関連する事業を一体化して評価するなどの方法を将来的には検討されたい。</p> <p>事業評価は、その事業箇所毎に目的に応じた手法に基づいて個別に評価する制度であり、異なる事業を同一基準で評価をしたり、総合的な効果の算定を行うような制度となっておらず、また、その手法も確立されていません。</p> <p>しかし、密接に関連する事業を一体化して評価することは、総合行政を進めていくうえで大切なことであることから、その手法について、検討を行っていきます。</p> <p>なお、対象事業の評価を行う際には、密接に関連する事業の計画内容や工程、効果などとの整合性を確認・検証することも重要であり、関連する事業についてもより詳細な説明ができるよう努めてまいります。</p>